編著者

ロイ・ヴィカリー　Roy Vickery

1947年、イギリス南西部の生まれ。
1965年より、ロンドンの自然史博物館に勤務。現在、同館の顕花植物部門の学芸員。イギリス植物学会、イギリス・フォークロア学会をはじめとする数々の学会に所属、植物学、民俗学の双方にわたる該博な学識を活かし、植物にまつわる民俗についての研究を精力的に展開している。

■主要著作
"Holy Thorn of Glastonbury"（1979）
"Unlucky Plants"（1985）
（邦訳は本書がはじめて）

■原書 "A Dictionary of Plant-Lore" は1995年、オックスフォード大学出版局刊。２年後の1997年にはペーパーバック版も刊行されるなど、イギリス本国では「植物民俗事典」の決定版として定着している。

訳者

奥本裕昭（おくもと・ひろあき）
1927年福井県生まれ。京都大学農学部卒業後、カリフォルニア大学に留学。
専攻：園芸学、植物生理学。
現在、私立ヴィアトール学園洛星中学・高等学校理事長。

■主要訳書
Ｈ＆Ａ・モルデンケ『聖書の植物』（八坂書房、1981）
Ｊ・ハッチンソン＆Ｒ・メルヴィル『植物物語』（八坂書房、1987）

A5判　総ページ数：512ページ（予定）　予価：本体 7800円

全項目数 1120　うち植物名（標準英名）460，地方名 394

付録：序論（「イギリス諸島における植物民俗研究の歴史」）／関連地図／植物名（学名／和名）索引

八坂書房

〒101-0064 東京都千代田区猿楽町 1-4-11
TEL.03-3293-7975　FAX.03-3293-7977

きりとり線

注文書

帳合貴店名

八坂書房刊　R.ヴィカリー編著／奥本裕昭訳　予価：本体 7800円

イギリス植物民俗事典

ISBN4-89694-475-5 C0539

お名前

ご住所

TEL.

冊

イギリス植物民俗事典

A Dictionary of Plant-Lore

ロイ・ヴィカリー［編著］　奥本裕昭［訳］

**最新の情報をもとに
イギリスおよびアイルランドの
植物にまつわる風俗・慣習・民間信仰を
網羅した画期的事典。**

民俗学・英文学・英語学の各分野に有用な情報を満載。
植物の地方名や俗名も多数収録し、
英→学名／英→和／和→英などの植物名検索にも便利。
原本は1995年，オックスフォード大学出版局刊。

八坂書房

◎本書の特色

1　最新の研究成果を反映

ロンドンの自然史博物館で長年、植物部門の学芸員をつとめる編著者が、1981年から1994年にかけて直接収集した、5,600に及ぶ情報を取捨選択して紹介、各種文献からの引用と併せ、イギリス及びアイルランドの植物にまつわる風俗・慣習・民間信仰・民間療法などの実態をつぶさに明らかにする。また巻頭には、イギリス諸島における植物民俗研究の歴史を概観した小論を収める。

2　19世紀以降の情報を多数収録

上記の調査結果をもとに、これまで紹介されることの少なかった、19世紀から現代にかけてのアクチュアルな情報を多数収録。また過去の文献に記された内容についても、明確な方法論に基づいて批判的に再検証し、イギリス諸島における〈植物民俗〉の〈現在〉を活写する。

3　植物の厳密な同定

取りあげる植物（全460項目）に関しては、植物学・民俗学の双方に明るい著者がその種を厳密に同定し、学名を併記している。このため本書は、一種の〈植物英名事典〉として利用することも可能である。

4　地方名も多数収録

一部地域のみで用いられている地方名や俗名についても多数収録（本書においてはじめて収録されたものも少なくない）。これらは参照見出し語として再掲されており、地方名→標準名の検索も容易である。

5　祭事・民俗・病名などのキーワードからの検索も可能

植物名の他に祭事・民俗・聖人名・病名などのキーワードも項目として立項、Battle of Flowers（ジャージー島の「花合戦」）、Corn Dolly（コーン・ドリー）、Jack in the Green（ジャック・イン・ザ・グリーン）、Well Dressing（井戸飾り）など、独特の祭事・風俗を詳しく紹介するとともに、関連項目を指示して、検索の便をはかっている。

組見本（85%に縮小）

①項目は原語のアルファベット順。

②標準植物名のほかに、祭事・祝日名、聖人名、病名などが見出し語として立項されている。

③本文中にあらわれる見出し語は、小頭文字（スモール・キャピタル）で表示。

④おもな地方名についても、参照見出し語として立項。

⑤植物を取りあげる項目では、種を同定して学名を明記している。日本語版ではさらに、該当する和名（および科属名）を併記。

⑥重要な植物に関しては、数ページにわたって詳述されている場合もある。

⑦引用部については２字下げとし、本文との区別を明確にした。

⑧編著者が独自に採集した情報については、入手地と入手時期が明示されている。

April Fools' Day　エイプリル・フールの日
この日に関連のある植物には，ヤエムグラ GOOSEGRASS などがある．

Arb-rabbit
デヴォン州における，ヒメフウロ HERB ROBERT の異称．

Arrowroot　学 *Maranta arundinacea*　**クズウコン**（クズウコン科クズウコン属）
クズウコンの代用品として，LORDS AND LADIES（アルム属の1種）が用いられることがある．

Arse-smart
コーンウォール州における，YELLOW BARTSIA（パレンツケリア属の1種）の異称．

Arthritis　関節炎
関節炎の治療に用いられてきた植物には，ミツガシワ BOGBEAN，COMFREY（ヒレハリソウ属の数種），NETTLE（イラクサ属の1種），セージ SAGE などがある．

Arum lily　学 *Zantedeschia aethiopica*　**オランダカイウ，**カラー（サトイモ科オランダカイウ属）
オランダカイウは世界各地で喪に服すことと結びつけられており，しばしば墓を飾るのに用いられる．そのため，室内のフラワー・アレンジメントに用いたり，病院に持ち込んだりするのはふさわしくないとされることが多い．

●私は，1946年に英国海軍での軍務から復員すると，ニュージーランドに移住した．幸運にも，オークランドのセント・ヘリアーズ・ベイにアパートを借りることができた．庭つきだったので，その手入れは自分ですることにした．
　庭の奥のほうはあまり手入れが行き届いておらず，オランダカイウが群生していた．その美しさが息を呑むほどだったので，何本かを切り花にして床の上にあった大きな花瓶に生けてみたところ，とても見栄えのする飾りつけになった．
　翌日，家主のおかみさんが，何か困っていることはないかと様子を見に来てくれた．……ところが居間に入ったとたん，彼女は手で口を抑えて「まあ，何てことを」と叫んだ．振り向いたその目には怒りの色があった．「オランダカイウを家の中に持ち込むなんて．もってのほかのことだって御存知なかったのですか？そんなことをすると，この家に死人がでることになりますよ」．
　私はこの言い伝えを知らなかったと白状し，あまりにきれいだったので，どうしても家の中に飾りたくなったのです，と言い添えた．すると彼女は，オランダカイウはニュージーランドではいたるところに生えており，雑草同然の扱いを受けているのだ，とも教えてくれた．彼女は私のしたことを近所のご婦人にも話していたが，聞かされたほうは十字を切っていた．私が二度とこんなことはしなかったのは言うまでもない．　［デヴォン州プリマス，1983年6月］

●病院では，オランダカイウ――ご存じでしょう，よく結婚式の花束などにも使う，大きな白い花ですよ――は不吉と考えられ，病棟に持ち込んではならないとされています．ある病院で働いていたとき，私は二度それを無視したことがありますが，その都度その晩に……　［ロンドン，ルイシャム，1986年4月］